

事業の背景・目的



キリシマイワヘゴは宮崎県と徳島県に数個体の生育が確認されているのみで、極めて絶滅のおそれが高い状況にある。本事業は、国内希少種キリシマイワヘゴを自生地での生育環境の改善と孢子からの人工増殖方法の確立及び自生地への補植方法を検討し、種の保存と生育地での個体の維持を図ることを目的とする。今年度は徳島県の自生地での生育環境測定、自動撮影カメラによる撮影、自生地周辺で残存個体の探査、孢子による人工増殖方法の検討を行った。

事業の内容

事業① 現地調査

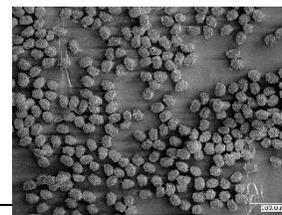
- ・生育環境調査：自生地の気温・湿度・地中水分量・光量を測定した。
- ・ニホンジカ生息調査：自動撮影カメラを設置し、自生地へ来る動物を確認した。
- ・フェノロジー調査：新葉の展開、孢子嚢の形成・完熟期、冬季の株の状態などを観察した。

事業② 周辺探査

- ・過去の確認地点や生育環境の似た場所、近縁種の生育地を探査し、本種が他に生育しているかどうかを調査した。

事業③ 孢子採取

- ・孢子採取の適期確認
- ・汚染の少ない孢子の採取方法の検討



事業④ 人工増殖方法の検討

- ・孢子の無菌播種条件の検討
- ・孢子の培土播き方法の検討



得られた成果

事業① 現地調査

- ・生育地は宮崎県も徳島県も平均湿度80%程度の高い湿度の環境であることがわかった。
- ・自生地にはニホンザル、ホンダタヌキ、ニホンジカ、ニホンノウサギ、ニホンリスなどが来ていた。ニホンジカは1月と11月に確認された。

事業② 周辺探査

- ・自生地周辺域で生育環境の似ている場所を9か所調査したが、新規に発見できなかった。
- ・宮崎県でキリシマイワヘゴと一緒に見られた近縁種の生育場所を中心に12か所調査したが、新規に発見できなかった。

事業③ 孢子採取・④ 人工増殖方法の検討

- ・5月は孢子が未熟で、6月初～中旬が適期。下旬以降は孢子が飛散して残っていなかった。本事業開始の7月下旬からでは孢子を採取できないことがわかった。
 - ・無菌播種の他に培土播き方法を検討した。培土の種類を変えて発芽率の変化を観察する。9月に播種して2月に前葉体が確認できた。
- 引き続き地元の方々と協働しながら、地元主体で自生地を維持管理していける体制を構築していく。